

本学教員執筆書籍の紹介

黒島 晨汎・浦野 哲盟・柏柳 誠・河合 康明・窪田 隆裕
篠原 一之・高井 章・丸中 良典・守屋 孝洋 共著

人体生理学

朝倉書店 2006年3月25日発行

柏柳 誠

本書は、人体の生理学の要点を学ぼうとする人々のために執筆された。本学名誉教授である黒島晨汎先生と北海道大学名誉教授故伊藤真次先生が1971年に初版として刊行された「人体生理学入門」、1985年に刊行された「新版 人体生理学入門」および1992年に刊行された「最新 人体生理学入門」の系譜につながっている。今回、2003年に逝去された伊藤先生に代わり、本学生理学講座自律機能分野の高井章教授をはじめとする新しい執筆陣が加わり、全面的に書き改められた。本書は、看護師、保健師、理学療法士、作業療法士などの各種メディカル職を目指す学生たちに対する必要な人体生理学の基礎的な知識を提供することを第一の目的としている。「人体生理学」では執筆者が大きく変更されただけでなく、「最新 人体生理学入門」までは、A5版であったが、今回からB5版に大きくなり、ページ端のスペースに解説を加えることにより、生理学の入門書としての教科書的な内容に留まらずに、最新の、しかも、深い内容の説明を加えているので読み応えのある内容が記述されている。

筆者は、自律機能分野の高井教授のご推薦により執筆者の一人に加えて頂いた。フルサイズの教科書ではなく、入門書的な性格を持つために詳しく書くことはできなかったが、今までの自分が持っていた知識があやふやだったことを気づかせてくれたのでとても勉強になる作業だった。教科書は、先に発行されている教科書を参考にして書かれるのは洋の東西を問わない。ただし、原著論文を確認せずに何代も教科書のみを参考に執筆が重ねられると正確さに著しく欠ける内容となる危険性がある。例えば、筆者の留学先のザールランド大学医学部第二生理学教室のリンデマン教授が折に触れて語っていたのは、舌の味覚地図に関する話題であった。1900年代のはじめにドイツの研究者が舌の様々な部位を4つの基本味で刺激したところ、舌の先端では甘味に“比較的”応答しやすく、舌の付け根の部位は苦味に“比較的”応答しやすい傾向を発表した。

この結果は、多くの人々が興味をおぼえたために多くの生理学の教科書で引用された。ただし、教科書に掲載される図は、多くの場合、原著論文で掲載された図を読者に分かりやすくするために少し手を加えている。新しく執筆された教科書は前に出版された味覚地図を参考にすることを繰り返したために、教科書から教科書に引用されていく過程で原著論文の主旨とはだんだん異なっていく。極端なものでは、甘味は舌の先端で、苦味は舌の付け根の部分で特異的に受容されると説明するように誤って記述されるようになった。最近では、味覚地図は誤解を招くことが知られるようになっていたためにフルサイズの教科書では記述が正確になっている。しかしながら、入門的な教科書では未だに誤った記述がなされているものも散見される。

多くの学生たちは、教科書に書かれていることは間違いのないものと確信している。そのような学生に対して、教科書に書かれていることでも間違っていること“も”あると教えてきた。ただし、自分自身でも教科書的な知識というのは、“大半の内容”がある程度その世界で認められているものであると思こんでいた。しかしながら、出版社から本の形で出版されるというプレッシャーから間違ったことは書けないという思いで何冊かの成著を真剣に読んでみると、教科書ごとに解釈が異なっている記述に思っていた以上に何度も出くわした。自分が専門である味覚や嗅覚の事柄は、いろいろと対立的な実験結果を知っているために教科書的な事実を記述しにくいことは強く感じていたが、当然のこととはいえ、他の分野でも教科書に書かれていることは、全てが本当に正しいわけではないことを再確認した。そのような現状は承知のうえで、ページ数が限られた状況の中で、現在出版されている教科書よりもより正確な記載を心がけた本といえる。なお、本稿の執筆にあたり、原著のとりまとめをされた黒島先生の“はじめに”を参考にさせて頂いた。

(生理学講座神経機能分野)